

霧島市横川町猪俣医院母屋 空き家改修報告

森 元一

第一工科大学 工学部建築デザイン学科 (〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-10-2)

Kirishima City Yokogawa-cho Inomata Hospital Main Building Vacant House Renovation Report

Genichi Mori

Associate Professor Daiichi Institute of Technology

(1-10-2 Kokubuchuo Kirisima Kagoshima ,899-4395,japan)

Abstract:

Renovation of the main building of Inomata Hospital in Yokogawa-cho, Kirishima City. Report on student volunteers repainting walls and replacing shoji screens

Key words: Renovation, empty house

1. 空き屋改修を行うきっかけ

2023年鹿児島県主催で、「空き家を地域の宝に！～利活用アイデア学生コンペ～」が開催された。募集期間は、令和4年6月16日（木曜日）～令和4年7月8日（金曜日）
一次審査会：令和4年7月20日（水曜日）
最終審査会：令和5年3月15日（水曜日）
一次審査を通過した3グループについて、公開プレゼンテーション及び審査委員による審査を行い、表彰作品を決定するスケジュールで行われた。

コンペの内容は、鹿児島県内に実在する空き家を対象として、学生による地域住民等を交えた「空き家の利活用」に係るワークショップを実施し、地域の活性化を目的とした空き家の利活用に関する企画提案を募集が行われた。

第一工科大学の建築サークルから、1つの案の提案を行った。提案は、現在霧島市横川支所が管理している猪俣医院の母屋の空き家活用計画で、地域活性化も目指しながら第一工科大学の3年生2人が地域の方々や行政スタッフとの交流を重ねながらまと

めたもので、子ども図書館、会議・団らんの場や横川町活性化に携わる人々のシェアハウス、管理入室を設ける等の計画提案を行った。



2. 改修を行う実施費用の支給

鹿児島県から出された条件は下記になる。

1) 事業実施要件

事業実施に係る要件は、次の各号のいずれにも該当することとする。

(1) 県が令和4年度に実施した「空き家を地域の宝に！～利活用アイデア学生コンペ～」の最優秀賞又は優秀賞の受賞者による、提案作品の実現等に資する事業内容であること。

(2) 事業完了年度及びその次年度に、県及び市町村等が実施する研修会及び見学会等において、改修に係る建築物を研修会等の会場として無償提供及びその運営に協力できる者であること。

(3) 原則として、本事業は令和6年2月29日(木)までに完了し、事業費を確定させること。

2) 事業着手に係る書類

提出事業実施者は以下の書類を作成し、令和5年8月2日(水)までに「6 問い合わせ先・提出先」あて提出するものとする。なお、記載すべき事項が包含されていれば様式は問わない。

- (1) 事業提案書(参考様式のとおり)
- (2) 次年度以降事業計画書(予定あるものに限る)

3) 事業完了後の書類提出

事業完了後は以下の書類等を令和6年3月8日(金)までに「6 問い合わせ先・提出先」あて提出するものとする。

(1) 改修工事については、改修前及び改修後が確認できる写真(2) 空き家の活用に係る情報発信等を実施した場合は、その方法や作成したチラシ・パンフレット、もしくはワークショップなどの開催状況が分かるもの

4) 補助の対象等

(1) 補助の対象となる経費(以下、「補助対象経費」という。)は、令和4年度に実施した「空き家を地域の宝に！～利活用アイデア学生コンペ～」において提案がなされた、地域活性化等に資する取組とする。(維持補修等は補助の対象とはならない。)

(2) 補助率は、補助対象経費の10分の10以内とし、**限度額は120万円**とする。限られた費用であるため、出来る限り最小限度にとどめ、現在利用できない状態になっているので利用できるように清掃片付けを実施して、最小限の内装工事を行う。

3. 今回の改修に当たっての方針策定

改修を行うにあたって、120万の予算について配分を検討した。自分たちでできる事と者さんに頼む事の二つに分けて考える事とした。

自分たちで出来る事。

片付け清掃。ペンキ塗り。障子貼替え
木工椅子の作成

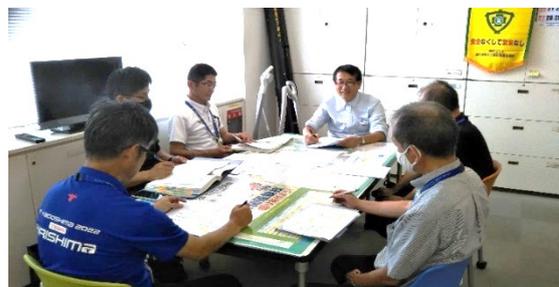
業者さんをお願いする事。

ドアの取り付け。ブロック塀の解体。
ブラインドの取付け。襖の貼替え※

※特に襖について、業者さんに頼む事とした。

4. 建物持ち主、霧島市との事前協議

改修に先立ち猪俣医院母屋の管理者である、霧島市の財産管理課担当の方、企画政策課の方、横川総合支所の方と打合せを実施した。霧島市と第一工科大学の連携協定にもとづき、猪俣医院母屋の改修の許可を頂くことが出来た。カギについては、横川支所で預かっており、毎回カギを借りて改修を行い、最後にカギを横川支所に返すと言う事で実施する事とした。改修内容を説明し、学生が行う事や、業者さんが行う事、10月から2月末までの工期で行う事などの、今回の改修内容を霧島市に対し説明をおこなった。



霧島市での打合せ(図2)

8月18日(金) 10:00~11:00

5. 自分たち出来る改修

1) バルサンを散布

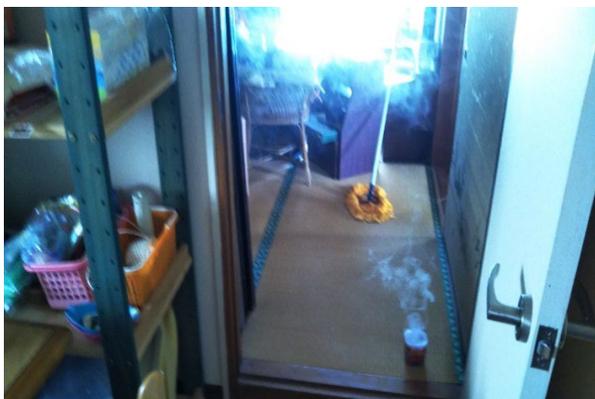
改修工事に先立ち、対象の物件に赴き、家ダニやゴキブリの駆除を行った。水タイプのバルサンと火



2種類のバルサン (図1)

を使って煙を出すタイプの2種類のバルサンを準備して、家ダニ、ゴキブリの駆除を行った。(図1)

各部屋に1個のバルサンを置いて家ダニやゴキブリ駆除を行う。図2



バルサンを炊いての駆除 (図2)

2) 荷作り及び荷物の運びだし

対象の住宅には家財道具が置き去りにされており、衣料品や資料が残されていた。学生5人で6日×半日かかりで、道具の整理と運び出しをおこなった。延べ15人工の



手間がかかった。

箱詰めした資材は、隣のコミュニケーション棟の中に仮移動した。

捨てて良いものと保管すべきもの(写真や位牌)などの分類も行った。図3は整理・箱詰め状況、図4は運び出し状況写。



整理・片付け状況 (図3)



材料運び出し状況 (図4)

3) ペンキ塗装の試み

ベニア部分と聚楽部分がありその分をペンキ塗装による処理をする事とし、下記の材料を準備した。
(写真5)



コテ刷毛
水性塗料
養生テープ

塗装材料 (写真5)

購入したのは1回塗の水性ペイントだったが、モルタル系の聚楽壁では水分を吸い込み、2度塗りしたほうが良いことが分かった。

塗装に先立ち、壁の養生を養生テープで行った。養生テープは、幅150の物(上部緑)と幅450(上部赤)を準備したが、150の物で十分であった。



壁・テープ幅150での養生の装状況 (写真6)



ベニア壁塗装状況 (写真7)

また、コテ刷毛を試して塗装を試してみた。ベニア部分に対しても、聚楽部分に対しても、ローラー刷毛の方が塗装に良いとい事がわかってきた。

壁の端部や細部は、ブラシ刷毛により塗装する事でうまく塗装できた。場所によって種類によって刷毛の使い分けが必要という事もわかってきた。

また当初はコテ刷毛を利用していたが、ローラー刷毛の方がペンキを大量に吸わせることができ、作業に適している事が分かった。

ローラーと刷毛タイプに変更



コテ刷毛
障子貼り材料 (写真11)
ローラー刷毛

コテ刷毛・ローラー刷毛 (写真8)



聚楽部分塗装状況 (写真9)



聚楽1階塗



聚楽2回塗り

聚楽壁塗装状況 (写真10)

聚楽部分はかなりペンキを吸い込み、ベニア部分に比べて2倍のペンキ量が必要であることも分かった。

4) 障子貼りの試み

障子張りについては、はがし材、障子紙、貼り付けのりを準備した。(写真11) 既存の障子をはが



すのに、はがし材と水で濡らしてアイロンを利用して。皮すきのようなものが必要で、木の枠に残った、のりや紙を綺麗に落とす作業を行った。



古い障子のはがし状況 (写真12)



古い障子のはがし状況 (写真13)

古い障子紙をうまく剥がすためにはがし材と、濡れ雑巾を利用して丁寧に剥がしていく必要があった。

アイロンを使って剥がさず状況

(写真12)

濡れたタオルでこすって剥がす状況

(写真13)

始めは、障子紙を障子のりで貼ってみたが、のりの部分がふやけてたってしまう現象が出た。



障子貼り材料 (写真14)

障子のりで雪見障子を貼っている状況。

濡れてふやけている部分のがのりを使って貼っている (写真14)



のり貼り

アイロン貼り

障子貼り材料 (写真15)

ふやけてしまう現象がでたので、途中から、のりで貼る方法からアイロンを使って貼る方法に変えた。(写真15)

雪見障子アイロン貼りで貼った状況 (写真16)

アイロン貼りの方が早くきれいに貼れる。



障子貼り材料 (写真16)

5) 子供家具の作成

① 森口木材での打ち合わせ

作成家具設置の取組み

鹿児島県産を利用するために、森口木材さんと打ち合わせを行った。(写真17) 県産材の値段や、板の厚さについてアドバイスをもらった。厚さについて、30mmの厚さの板を提案してもらった。理由は、反りが少ない事であった。



木材についての打ち合わせ状況 (写真17)

鹿児島県産材厚さ30mmの材料を学校の建築デザイン学科材料実験棟に搬入。(写真18)



木材の搬入状況 (写真18)

また加工に当たって、60度カットを行うのが難しいとのアドバイスをもらった。特殊な角度カット切断機を森口木材さんから借用した。(写真19)



60度カットの切断状況 (写真19)

30mmのスタイロホームを利用して納まりの確認を実施。細部の納まりを確認した(写真20)



スタイロを使って仮製作の状況 (写真20)



材料のケガキ状況 (写真21)



木材加工状況 ダボ穴処理 (写真22)



完成後の家具 (写真23)

6. 業者さんによる作業

① ブロック解体工事



② ドア取付工事



ブロック塀の解体：ユンボにアタッチメントを付けて、ブロックを挟みながら解体した。ブロックの解体くずや鉄筋も処理してもらい最後に床の整地を実施してもらう工事を依頼した。また、外部ドアの取付けを専門会社に依頼した。

③ 襖張替え工事



④ ブラインド取付工事



襖張替え工事及は、金具の取り外しなどあり技術が必要であり、ブラインド取付工事については、特殊な技術が必要なため今回は、業者さんに依頼する事とした。

7. 最終実施結果

今回、学生たちの協力えて、改修工事を期間に終える事が出来た。少しではあるが、改修の実績とノウハウを得る事ができた。塗装材料の選定、筆などの選び方など、記述したように試行錯誤をすることが出来、今後の改修に役立つことが出来る。



改修後のリビング内部

作成家具の配置バリエーション



8. 今後の課題

前回の改修を終えて、改修工事の一部を学生と共に経験することができた。床材への塗装塗り替えなども、横川支所からお願いされており、床塗料の選定などを今後していく必要がある。いろいろな材料を選定していく上での良い学びの場となるのではないか。

9. 結び

前回の改修を終えて、改修工事の一部を学生と共に経験することができた。この場所で、読み聞かせ会の実施もでき、多くの人が集まってコミュニケーション図る事出来る場所として、当初の計画のように、再生することができた。

10. 謝 辞

今回、改修工事に関わってくれた、2023年度の森研究室の、藤崎さん、白山さん、小吉さん、座波さん、横田さん、花立さん、金さん、および建築サークルの多くのメンバーには、ボランティアで改修工事に参加してくれたことに感謝したいと思います。